

前回の審議会における主なご意見等

1 家庭ごみ有料化制度について

(プラスチック製容器包装類の取扱いについて)

- ・家庭ごみ有料化導入の前提として、プラスチック製容器包装類の対象品目や資源物として排出できる汚れの基準を明確に示すことが必要である
- ・プラスチック製容器包装類の対象範囲をわかりやすく絞り込めば混入を防ぐことにつながる
- ・分別を促進するためには、分別の意義を周知する必要があり、プラスチック製容器包装類の資源化状況について市民に情報提供をすべきである
- ・ペットボトルは無料にして、それ以外のプラスチック製容器包装類は有料化の対象としてはどうか
- ・ペットボトルとそれ以外のプラスチック製容器包装類を分別すれば中間処理施設での手間が減るのではないか

(料金水準について)

- ・市民に対して料金水準の根拠を示す必要があり、本市の削減目標を達成できる料金水準や近隣市の平均値を根拠とすることがわかりやすいのではないか

2 ごみ収集回数の削減について

- ・ごみ収集回数を削減すれば夏の生ごみ対策に各家庭が苦戦する
- ・燃やさないごみ・有害ごみは他の品目と併せて収集できないか
- ・ビン・カンと紙類は月 1 回の収集でも十分である
- ・小さな雑紙などを分別して紙類として出す方もいるので、紙類は週 1 回の収集が必要である
- ・紙類、布類を月 2 回の収集にすることも検討するべきである

3 戸別収集方式の導入について

- ・ ルールの徹底のためには狭あい地区を含む全世帯に戸別収集を導入すべき
- ・ 現状の集積所収集で問題の無い場所や集積所のカゴによってカラス対策につながっている場所もあり、調査した上で、地域にあった収集方法を考えるかどうか
- ・ 戸別収集の導入によって、駅周辺の渋滞や事故の増加が懸念される
- ・ 現状の試算ではコスト増が大きく、市民への説明が難しい
- ・ 不適正排出の対策にかかるコストについても考える必要がある
- ・ 広報ではクリーンセンターの建て替えに関するコスト減の効果を示しているにも関わらず、戸別収集の実施で赤字になっては説得力が無くなる
- ・ 戸別収集の費用対効果も考える必要がある
- ・ 全世帯の3分の1である戸建住宅の世帯を対象とした戸別収集に5億円を費やすのは高いと感じる
- ・ アンケートで戸建住宅の方々が戸別収集の導入にあまり賛成していないことを考えると導入は難しい
- ・ 一部を戸別収集にして、多くは従来の集積所収集という組み合わせも考えられる
- ・ ごみの排出が困難な高齢者等の支援という観点に限った戸別収集も考えられるのではないか（高齢者等の安否確認も兼ねることができる）

4 その他

- ・ 市川市は緑が多いため、剪定枝の資源化も考えてはどうか